

大坂出張復命書

778



大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

大阪出張復命書

靖  
 兼三  
 大阪出張ノ命ヲ奉ス其事タル専ラ山縣陸軍卿ニ從ヒ  
 砲兵支廠ノ現況ヲ視察シテ西南征討費支用ヲ着洛ヲ審査ス  
 ルニ在リ而シテ亦造幣局例年ノ試験場ニ會同シ且五代氏製藍ノ  
 景況ヲ觀視スヘキノ旨ヲ頌セリ六月十二日清水會計副監督井上  
 少佐ト同ク陸軍卿ニ陪從シテ東京ヲ發シ同十四日大坂ニ達ス翌十  
 五日始テ砲兵支廠ニ至リ亦後毎日該廠ニ就キ帳簿ヲ檢閲シ工場  
 事況ヲ審査ス摺理関中佐副摺理河上大尉拮据辨明甚ク務ム  
 廿三日ニ至リ概子其事ヲ了セリ其間大坂府廳ニ至リ造幣局ニ來往  
 シ以テ頁摺ノ務ヲ致ス廿四日製藍場ニ至リ廿五日造幣試験ノ事ヲ  
 ル因テ廿七日ノ船便ニ搭載帰京センラ謀ル高ノ陸軍卿旨アリラ果  
 サス本月二日大坂ヲ發シ四日東京ニ歸ル造幣局試験ノ事ハ專便ヲ  
 ル與合官權大書記官ノ復命ニ諫リ大坂府廳ニ係ル事項ハ直ニ議



大  
 蔵  
 自

樂課長ニ報道セリ乃チ砲兵支廠ノ始末ト梨藍場ノ所見トヲ  
具シ謹テ 閣下ニ復上ス就中砲兵支廠ノ事ニ至テハ征討費ノ  
處分整理ニ関シ陸軍資費ノ當否ニ係ルヲ以テ自ラ詳ヲ加ヘサル  
ヲ得ス伏テ惟ニ電覽ノ後幸ニ明新ヲ賜ヘ頭首謹白

明治十一年七月

大藏權少書記官大谷靖

大隈大藏卿閣下

大阪砲兵支廠位置ノ實況

一 砲兵支廠ハ大阪城ノ北郭ニ在リ乎城トノ間ニ塹壕ヲ以テ之ヲ畫シ  
其外面ハ更ニ大壕アリテ之ヲ匝シテ而シテ其壕ハ元ト大川ノ支  
派ニシテ細島ヲ抱テ本流ニ入ル以テ淀川ニ溯ルヘク安治川ニ下  
ルヘシ運輸ノ便最モ宜シキノ地トス

一 支廠ノ門ハ西ニ面シ川崎橋ノ側枿形ノ内ニ在リ門ニ入テ一路數百  
歩ニシテ更ニ門アリ又數百歩左傍ニ長廠兩ニ棟アリ之ヲ小銃修  
理所トス此ニ續テ兵器庫三棟又木工ノ分廠等アリ且此邊ニ本  
局一棟ヲ建テ至セントセシニ工未シク分ニ至ラステ中止セリ又官築課  
ノ一局アリ其隣リハ該課ノ園引所トナシ今ハ時マツテ應接所トス之ニ接  
シテ木工廠アリ其階上ヲ鞞工所トス而シテ此前面昂々門ニ入テ右傍ハ塹  
壕ニ沿テ一帯ノ長廠アリ其中ハ現ニ小銃改造所トシ一所ハ改造ヲ  
要スル小銃格納所トス而シテ隣接スル一所ハ大砲格納所ナリ其他ノ

屋廠ハ電機鍍金所又ハ各種ノ雜工場ニ供ス然レモ此等ハ總テ一時ノ假設ニシテ實ニ假木屋タルニ過キヌ特ニ小銃改造所ノ如クハ同國鍊丸ヲ以テ建テシヨリ然レモ其結構工場ニ類セザルハ蓋シ本ト荷造リ場ノ為メニ設クル者ニシテ今已ムヲ得レテ姑ク改造所ニ假用スト云

一 木工廠ノ前一塹壕アリ外壕ニ通シテ運輸ニ供スル者ナリ此壕ヲ渡テ事務所アリ其近傍銃工所アリ大砲製造所アリ砲彈製造所アリ其他各種ノ格納所アリ此邊屋廠縦横設置大寺相交リ位置之シモ序次ヲ得サルハ故ニ一ニ名狀記述スル能ハスト雖モ他ノ解崩屋材ヲ納シ管築材料ヲ貯ヘ管築工事ヲ為ス等種々ノ假小屋ヲ除クノ外ハ自然妥頓シテ防管モ亦シ整備スル者ニ似タリ

二 右ノ一所ヲ出テ裏面ノ一曠地ニ至レハ小銃彈藥製造所アリ彈藥ヲ製造スルヲ最モ感ナリトス而シテ火藥ヲ量入シ雷粉ヲ填裝シ遂ニ包

装スルニ至ルマテ凡ソ數ヶ所ニ點設セリ尤モ火藥雷粉ヲ取扱フノ所ハ必ス各所ト其距離ヲ隔絶シ決シテ相連接スルヲ許サス此レ其曠地ヲ要スル所以ナリ且大砲彈ノ信管ニ填藥スルノ所モ亦此邊ニ在リ

一 塹壕ヲ渡テ城中ニ入レハ又支廠ノ出張所アリ此處唯兵器ノ格納スル所トス其倉庫ハ四幕ノ遺物ニシテ頗ル堅牢ナル者凡ソ十數棟アリ或ハ彈藥ヲ納シ或ハ諸材料ヲ納シ藥包盒其他諸兵器アリ又損銃廢炮ノ類最モ多シトス

一 支廠内ノ工場其他ノ位置概子是ノ如シ而シテ其件ヲ逐フテ目今事業ノ景況ヲ檢スルカノ如シ

各場工事ノ現況

一 小銃修理所

假廠二三棟アリ今修理スル所ノ銃類壹ニ數種ナラス而ノ銃堂ヲ  
修スルアリ概闕ヲ理スルアリ或ハ全體或ハ一部分皆検査役ノ指揮ニ  
從テエラ成スルトス職工現ニ數十名アリテ修理ヲ要スル銃類ハ山  
積丘唯シ且隨テエラ竣レハ隨テ概十間折アルヲナシト云今テ常  
費ヲ以テ之ヲ為スナリ

凡ソ此銃類ハ西南各鎮兵ニ屬スル器械ニシテ各部ヨリ毎ニ其恒銃  
ヲ自ホメ此ニ送付シテ之カ交換ヲ要スル也故ニ支廠ニ在テハ其恒銃  
ノ類ニ應シテ更ニ齊備セル銃類ヲ給付スルニ因リ其修理、尚モ寺岡  
ニスルヲ得スレテ且常ニ損銃ニ二倍セル銃ヲ備ヘサルヲ得サル者ニ然ルニ  
從來ノ銃類タル或ハ改造物ニ係リ或ハ旧物ニ屬シ其原品庫番ナルカ  
為ゾニ其損壞スルヲモ亦シ隨テ速ニ且多シ況ヤ豫備ニ供スル銃  
類大ニ不足スルカヤ此レ新ニ小銃ヲ製造セントスル所以ン又今ノ  
修理所ナル器械備ヲサルヲ故ニ其モ自ラ精良ナルヲ得サルノミナラズ

切ラ成スル遲緩ナリ之カ為メニ各兵ノ使用スル銃類ノ或ハ此ニ少善  
良ナラサルヲアルトモ姑ク之ヲ閣置セサルヲ得サルニ至ル此レ實ニ兵務  
ノ欠策ナレハ新ニ小銃修理所ヲ改良セントスル所以ナリト云

一 兵器庫

三棟アリ皆練瓦ヲ以テ建葺シ其結構ハ本廠所在ノ小銃庫ニ同シ現  
ニ格納スル兵器ハ多ク小銃及ヒ屬具類ニシテ其他各種ノ器仗ヲ蔵ム  
尤モ其一所ニ於テハ專ラ見本類及ヒ雜種ヲ置ケリ然レモ目下小  
銃及ヒ屬具其他共懸テ一庫中三分一ニ滿タスルニ似タリ蓋シ此  
等ハ時ニ交換アリ或ハ改造或ハ修理ニ付スル等ノ事ニ因ルト雖モ  
亦タ如今現器ノ僅ナルニ職由セリ則チ交換豫備ニ乏ク知テ  
兵器製造ノ緊要ナルヲ徴スルニ足レリト云

一 本局建築

練瓦ノ建葺ナリ工未タ四分ニ至ラズシテ中止スレハ今テ常費ヲ

以テ着手スル者ニシテ着手ノ後一タと停止シ其後又復エラ始メシニ  
更ニ空額不給ノ也シアルヲ以テ遂ニ之ヲ中止セリ此ニ由テ之ヲ觀レハ  
自ラ陸軍會計ノ苦心ハ當ニ徒費セサルノミニ非サルヲ知ルニ足ルヘシ  
ト云

一 木工廠

大砲車其屋ヲ製造スル所ナリ分廠二三所アリ屋廠四器械等未タ之  
ス十分チラスト雖モ亦之ヲ以テ用ヲ達スルニ足レハ別ニ感ニスルヲ要  
セスト云

一 鞆工所

今假リニ木工廠ノ階上ニ在テエラ為ス騎兵馬具砲類使馬具及ヒ  
砲鏡ノ藥包盒其他凡百ノ鞆具ヲ製スル所ニシテ現ニ小銃藥包  
盒ヲ製スルヲ見タリ亦シ常費ヲ以テ之ヲ成ヌナリ

此所ニ於テ使用鞆類ハ專ラ外國品ニ資レリ尤モカノ及フ丈ケハ内國

産ニ取ラントシテ百方注意スルニ紀州ヨリ出スモノ及ヒ京都勸業場  
ヨリ出スモノ皆之ニモ用ニ足ラスト謂フニ非ストモ其製法粗ニシテ表面  
ノ皺皺甚タ多シ故ニ雨濕ヲ受ルノ稍甚ク爾テ脆弱ノ弊アリ若  
シ其製法ヲ精密ニセバ敢テ外國品ヲ仰クニ及ガルヘシト云此ニ由テ  
陸軍卿ハ内國産ノ鞆類ヲ用ヒ假ニ若干箇ヲ製造シ之ヲ兵卒ニ  
付與シ能ク其堅脆ヲ試ムヘシト命令セラレタリ此等ハ精カ此行  
ノ事ニ關セサル件ト雖モ自ラ他ノ參考ニ於テ今ヲ無用ナリトスハヤニ  
サルト思考シ敢テ此ニ贅言セリ

一 小銃改造所

エシヒール銃ヲ復裝アルミニー銃ニ改造スル所ニシテ現ニ元新造リ場  
ヲ以テ假リニ之ニ充テ當時專ラ工事ヲ成セリ然レシモ此レ亦シ常  
費ノ部ニシテ臨時費ニ所謂アルミニー銃改造費トハ自ラ列  
ナリ

一 改造ニ付テハ小銃格納所及ヒ大砲格納所

此等ノ屋廠ハ堅牢ナルヲ雖モ亦少用ニテラヤル者ニテラス別ニ記述スヘキナリ

一 電機鍍金所

下士官以下佩劍其他ニ用ユルヲ裝飾ノ金具ヲ製スル所ニシテ瑣細ノ假小屋ナリ此ハ近來ノ開設ニシテ真ノ小工事ノニ敬テ記述スヘキノ限リニアラス

一 雜工所

各工場ニ付屬スヘキ雜工事ニシテ譬ハ彈藥製造場ニ於テモ該器械其他ヲ修理スルヲ木エラ要シ鍛エラ要スル等自ラ瑣細ノ小工事アリテ該場毎ニ付屬スヘキ者ナリ然レ今各場整備ニス又ハ火災ニ依テ居所ヲ失ヒタル等ニ依テ假ニ粗廠ヲ描ヘテ現ニ之ニ往事スルノニ故ニ目下ノ工事ハ其本場ノ費連ニ往テ供給ス此亦

別ニ記述スヘキノナリ

一 大砲製造所

練瓦屋ナレモ甚ク狹隘ニシテ真ニ假小屋同様ナリ故ニ其砲身ハ今砲彈鑄造ノ所ニ於テ之ヲ鑄型シテ後此所ニ於テ其鑄孔ヲ鑿テ旋條ヲ施シ及ヒ其外部ヲ裝製スルトトス蓋シ及射爐ナリ工場狹ク器械多ラサルヲ故ニ現今製シ得ル者ハ僅ニ六五度内外ノ野砲又ハ山砲ニ過キス決テ彼海岸山林ノ砲臺ニ据置スヘキ大砲ヲ製造スルヲ得ス此新ニ大及射爐ヲ建築シ器械ヲ置入セント欲スルノ原因ナリ靖カ目撃スル所ハ常費ノ工事ニシテ山砲ヲ製造セリ鑿金鑄器械施條器械各一且置ニシテ外部ヲ製作スルノ器械モ亦少一且置アリ其他各種ノ器械ニ三且置アリ此レヲ製砲器械一具トス然レモ今ノ施條器械ハ若干時間ニ一門ヲ施條シ得ルニ鑿金鑄器械ハ之ニ倍スル時間ヲ費サ、ハ一門ヲ鑿金鑄スルヲ得ス

故ニ施條器械ハ一門ヲ施條シ得ルノ後暫ク休停セサル可ラカルノ  
弊ニシテ大ニ不都合ナリトス若シ施條器械一臺ニ鑿鑿器械二臺  
ヲ備フシハ恰モ彼是釣合シテ甲乙ノ工偏頗ナルニ至ラヤルハ且外部  
ヲ製作スルノ中砲身ノ兩腋(架臺ノ處)ヲ磨削スル器械ニ素ヨリ  
其用ニ適セズ今姑ク牽強シテ僅ニ之カ用ヲ為スルニ此ニ因テ今注文セ  
シ器械到来セハ始テ完全ヲ得ヘシト云

一 鉄工所

専ラ大砲車臺<sup>ニ屬</sup>製作スル 鉄具ヲ製スル所ナリ故ニ木工廠ト鉄  
工所ト併セテ單ニ車料廠ト称スルモ妨ケナキ者ニ似タリ現ニ往事ス  
ル所ハ木工及ビ造砲ニ比准ナス且此工場ハ木工廠ト同ク現在ノ者ニ  
テ乏レリト云

二 諸村料格納所

支廠構内ニ數棟アリ又城内ニ在リ 城内ノ分ハ多ク在来ノ倉庫

ヲ用ユト雖モ其他ハ多ク板建ノ長廠ナリ此レ監村局ニ管スル所ニ  
シテ鉛アリ鉄アリ真鍮アリ釘金物ヨリ以テ紙系類ニ至ルニテ總テ  
銃炮及ビ彈藥其他ノ工事ニ需要スル凡百ノ材料ヲ納ム尤モ其村  
料ナル概テ各事毎ニ之ヲ備ル<sup>トセリ</sup>譬<sup>ハ</sup>ニ反ニ小銃百挺ヲ製セ  
ントスルニ當リ其<sup>ヲ</sup>為<sup>ス</sup>ニ購収セシ銃身杖閔鉄其他諸種ノ材料  
ハ專ラ其用ニ供スルノ<sup>ニ</sup>テ敢テ他ニ支使セズ又別ニ銃類ヲ  
製造スル事アルハ更ニ其材料ヲ貯フル<sup>ト</sup>前ノ如シ故ニ假令<sup>ニ</sup>龐  
餘<sup>ニ</sup>剩<sup>ル</sup>有<sup>ル</sup>トモ其價直ノ差列<sup>ヲ</sup>為<sup>サ</sup>スレテ併セテ製<sup>ス</sup>ル品ノ代  
價中ニ挿入スル<sup>ト</sup>トス此レ頗<sup>ル</sup>弊<sup>アル</sup>ヲ覺<sup>ス</sup>ル<sup>ヲ</sup>辭<sup>見</sup>後<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>

一 炮弹製造所

練瓦屋ニシテ位置宜キヲ得タリ敢テ廣濶ナラスト雖モ亦<sup>シ</sup>是<sup>ノ</sup>  
狹隘ナラス彈質ヲ鑄造スル 鑪<sup>ノ</sup>鑪<sup>アリ</sup>彈型ヲ製スル<sup>ヲ</sup>以テ庇鉛  
ヲ填付シ外部ノ塗裝スルニ至ルマテ 諸種ノ工事各其所アリテ序



次整然ナリ恰モ造幣局工場ノ金銀鑄解ヲ仲金秤量ヲ經  
以テ極印糊封ニ至ルノ順序ヲ經過スルト同一般ニテ支廠由工事ノ  
鼠ニ觀察シ易キ者トス既ニ此工場アリ今又大砲製造所ヲ建  
セハ造炮ニ於テ稍完全ナルヲ得ヘシト云

一 小銃彈藥製造所

數棟ノ屋敷アリテ之ヲ製造スルハ略前ニ記述セシカ如シ現ニ常費  
ヲ以テエラ成セリ而シテ此工場ニ於テ製成シ得ル所ノ彈藥ハ毎日三  
千發ニ過キスレテ第ニ方面ノ軍人ニ給スルニ之ニ比シテ立シ器械ノ  
備ラサルニ因レリ加之現在ノ器械未ダ精良ナラサルヲ故ニ適意ノ  
彈藥ヲ製造スル能ハス此等ノ理由ヲ以テ新ニ製造器械ヲ購  
入シ器械所ヲ設置セントスル所以ナリト云

一 城内出張所

此レ專ラ倉庫ヲ管スルノニシテ敢テエラ成ス所ニアラス此ニ格

納セル者彈藥アリ材料アリ其他兵器類ハ多ク損壞不用ノ物件ニ  
屬セリ就中廢損銃五萬挺余アリ二三庫ニ分置シ置キ山ノ如シ之ヲ  
改造スヘキ者ナレトモ其時間ト費用トキヲ以テ未ダ着手スル能ハサ  
ル而シテテラス手入スラ尚ホ等閑ニ付シ徒ニ如是未聞セリト云又損壞  
數百挺アリ此レ單ニ西南戦役ノ為ニ損壞セシモノ者ナリ然レモ中  
ニハ尚ホ取ルヘキ者ナキニ非スト雖モ未ダ之ニ着手スル能ハサルハ亦少  
前ノ小銃ト同一般意ナリ蓋シテ支廠ノ困難ナル推テ知ルヘシト云  
一 折モ砲兵支廠ノ沿革タルヤ最初ハ大砲製造場ト稱シ專ラ大砲  
鑄造車臺製作彈藥製造ヲ司トリ傍ラ小銃彈藥ヲ製  
造スルノナリシニ尋テ造兵司ニ屬シ其後砲兵ヲ分テニ方面トス  
ルニ當リ第ニ方面即チ大坂支廠ニ於テハ西南各鎮兵ノ兵器ヲ供  
給スルヲ掌ルノトナレリ因テ其名ハ支廠ト稱スレトモ其實ハ全體  
ヲ備ヘサルヲ得スレテ其事務ハ本廠ト是夕徑庭アルノナレ故ニ庶

兎島火藥製造所廢止ノ上ハ伏見ニ之ヲ設置セント欲スルハ愈  
已ムヲ得サルニ至リ(此ニ豫テ設テ今釐スルニ及ス)但其資費給ヘス  
且陸軍卿ノ斟酌アルヲ以テ未ク敢テ請求セサルノニ其支廠ニ於  
ケル工業資費ノ已ムヲ得サルモ亦ク以テ諒スヘシト云  
一前條ニ記述セル所ハ今更ニ從來ノ物件ト現在ノ事況トニ係リ請カ此  
行ニ緊要トラサル如シト雖モ自ラ臨時費ヲ以テ着手セル原因ヲ尋  
シ之ヲ起廢ノ處置ヲ擬議スルニ於テ敢テ關係ナシトセス且今後  
該廠ノ仕法ヲ改良スルノ事トマルニ至レハ其現況ヲ當テ考ヘ欠ク  
ヘカラサルトト思考シ為メニ時間ヲ費シテ其主任ニ問ヒ現物ヲ  
視以テ之ヲ推究セシ所以ニシテ既ニ之ヲ詳ニスル上ハ在討費ニ関  
スル此行至務ノ事項ヲ開陳スヘシ

征討費ニ関スル事項ノ現況

一及射爐建築

支廠内ノ一所ニ經營シ總テ練瓦ヲ以テ之ヲ建築セリ同匠既ニ廣  
亘ニシテ結構甚ク巨大ナリ各所ニ門アリ迂蛇曲折恰モ八陣圖ノ  
觀ル如ク殆ント必ク狀記述スル能ハスト雖モ墜坑内ノ結構ハ已ニ切  
ヲ竣メ外面ノ工モ亦ク分ヲソスルヲ認メタリ其工事ノ歩通り  
ヲ論スレハ既ニ六分ヲ過クト謂テ可ナリ國內ノ及射爐ニ於ケル思ハ  
如ク是トナル者アルヘカラス昔者薩藩佐賀藩ニ於テ大及射爐ヲ  
建築セントセシマリシモ未ク敢テ此ニ及ハサルヘシト云蓋シ其及射爐  
既ニ如ク是ニシテ殊ニ大砲製造所ヲ副造スルヲ以テ其結構ノ廣大  
宏壯ナルヲ想フヘキ也

此及射爐及大砲製造處ヲ新築スルノ旨意ハ前段大砲製造  
所ノ條下ニ於テ陳述セシ如シ此費用金トシテ征討費中ヨリ支給セ

高金四萬圓ニシテ其中拵濟金壹萬三千四百三拾六圓八拾貳貳七重  
トス而ノ將來支払フヘキトスル金ハ貳萬六千五百六拾三圓拾七重  
ニシテ敢テ齎餘スヘキ者ナシトス且此外楯土所安スル金額ヲ於壹萬  
四千九百四拾三圓許トシ且明治年六月ヲ期シテ切ラ竣ムヘシト云故ニ  
曾テ兵器庫建築費ニ充タル金於萬圓ノ内建築中止ニ依リ拵  
残七萬四千九百余圓ヲ以テ之ニ流用セントスルヲ議ナリト云  
抑モ此建築タル始メテ昨年西南ノ役ニ由リテ起リタルニ非スレテ既ニ  
一二年前ヨリ之ニ着手セル者ナリ然レトモ其資費給セサルカ故ニ定  
額内ヨリ僅クノ金額ヲ以テ之ニ充テ漸ク工ヲ成シ年月ヲ曠フシテ  
切ラ竣ムルノ目的ナリシニ昨年西南ノ事マリ巨額ノ金額ヲ收得スル  
ニ際シ大ニ其工ヲ感ニセシモノトス故ニ今征討費整理上ヨリ之ヲ  
觀シハ少ク妥當ヲ欠クニ似タリ蓋シ主任者ノ言ハニ云フ我敢テ擅  
ニ此ニ支用スルニ非ス當時大山少輔ヨリ我大藏卿ニ忝議シ其承諾

ヲ得タル也ト顧フニ大山少輔ノ説レシ所未ダ之ヲ諦知スルヲ得サレハ  
我卿ノ許諾セラレシ深意モ亦少ク臆測スヘキニ非スト雖モ畢竟  
當時ノ形勢ニ於テ自ラ已ムヘカラサル所アリテ必ス征討費ニ要用  
ナル者ト認得セラレシナラシ信ス然ル上ハ今ヨリ諦觀シテ此ノ  
欠當ノ所アリトスルモ之ニ充用セシ金四萬圓ノ内既ニ拵濟ノ額  
依然征討費ノ決算ニ立ルモ不可ナルトナルヘシ但シ六工程明年六  
月ニ至ルトセハ今後ノ費金ハ征討費ヨリ支弁スヘカラサル者ナリ  
前節費額ノ内將來支拂ヘキトスル者貳萬六千余圓ナリト云ヘトモ  
靖カ閩ノ所ニ在テハ外國ニ注文セシモノハコレナシト云フ且ツ陸軍卿ノ  
示言ニ云フ該額ハ單ニ建築ノ費用ヲ算セシノミ然ルニ項日主任者  
ヨリ此ニ要用ナル瓦礫ノ類又ス外國ヨリ購入セサルヲ得サル者アルカ故  
ニ此時ニ際シ之ヲ注文シ置ニテテ請求セシカ金ハ乏下等ニ對シテ  
信ヲ失フノ嫌アルヲ以テ未ダ敢テ許可セサルナリト亦以テ陸軍卿ノ

用心ヲ見ルヘシ然レトモ現ニ其壮大ノ結構略成ノ状昔ヲ觀察スル  
ハ其敢テ中止シ止月セサルハ亦決シテ無理ニ非スト思考セリ

一兵器庫建築

此建築ハ城内ニ於テユラ起ヤントス四方棟三層樓ヲ徑營シ上ニハ  
属具類ヲ容レ中ハ小銃下ハ砲類ヲ貯フルノ目途ナリト云而シテ今ハ之  
ヲ中止セリ其工程ハ左ノ如シ

一木材ハ未ダ着手セズ唯南物四車ヲ購入テ外濠内ニ在ルニ

一石材ハ要用ノ高千式百材ニシテ内六百材ハ既ニ購収シテ現ニ城内  
ニ安置シ百材ハ輸入シテ川口ニ在リ亦ソ日ニ城内ニ運搬スルヲ見

タリ残り五百材ハ未ダ輸送シ来ラス此石材ハ備前ニ産出スルト云

一地形林ハ三千本ニシテ既ニ具備シ現ニ外濠ニ浸淫シ在ルヲ  
見ル

此費額拾萬圓ニシテ其内既ニ支拂シ金貳萬五千五百拾六圓今之ヲ

中止セシニ依リ残債ノ金七萬四千九百四十四圓トス而シテ該残債ノ金額ハ  
及射燈建築費ニ流用セントスルノ議ニ決シタリ故ニ主任者ニ於テ之ヲ工  
事中止ノ限リニ非ストシ敢テ之ヲ残金ノ部ニ置カスト云然レトモ及射  
燈費ニ充タル四萬圓ノ内モ尚ホ六月中ニ支用シ尽セハル位ノ事ナルハ故  
ニ未ダ此額ニハ着手セザルナリ因テ費途区分ノ議決シタル上ハ素リ  
之ヲ残金ト見做シ完納セシメテ可ナル者トス

一アルミニウム鏡改造

此工事ハ當時山口縣下萩製造所ニ於テ之ヲ成ス前ニ記述セシ支  
廠内ニ在ラ定額常費ヲ以テエラ成ス者トハ今ノ別ナリ別ナリ支廠  
ニ在テハ此改造ノ工程如何ニ關係セス唯其費金ノ支給方ノ掌官  
シ支廠ノ費途ニ編入スルノミナリト云故ニ靖ハ現場ヲ觀察スル能ハス  
又其明細帳ヲ検査シ得サル也

此費額ハ壹萬三千五百圓ニシテ既ニ支拂ビタル金ハ千五百貳拾貳圓

五指式ナリ尤モ支廠ヨリハ秋製造所ニ對シテ仮拵ヒトス而シテ将来支拵ヲ要スル者トシテ現在ノ金員ハ五千三百七拾七圓五拾弍ニシテ本年十月月中ニ非ラサレハ切ラ致メスト云

然レトモ此工事ナル着手ノ初メニ於テハ征討ノ用ニ供スル為ニセシト云トモ今ニ在テハ固ヨリ後日ノ豫備ニ充ル者ナリ則チ其現在セル金員ハ征討費中ノ支出ニ属スヘカラサルニ似ナリ

一 大砲製造器械購入

此器械ヲ購入セントスルノ旨趣ハ前段在来ノ大砲製造所ノ條下ニ記述セシカ如シ而シテ其現品ハ未ダ到着セズ實ニ約定濟ノニ係ルト云此費額ハ拾貳萬圓ニシテ既ニ支拵済トスル金三萬六千貳百五拾九圓五拾弍厘額三分一強ニ當ル此蓋シ約定手附金ノ類ナリ而シテ殘金八萬三千七百四拾圓五拾弍ヲ條約濟ニシテ将来必ズ支拵ヲ要スル者トス且其殘ラス支拵ヲヘキノ期限ハ未立年六月限りニシテ今ヨリ尙ホ未立ケ月

ヲ經ヘキ者ナリ

畢竟此事ノ起ケタル在来ノ器械完全善美ナラサルカ故ニ其十分ヲ求ムルカ為メニ到来セル事件ナレハ之ヲ征討費ヨリ支出セントセシハ果シテ妥當ナルヘキヤ否ハ吾人共ニ保護シ得サルノ巨ナリ此レ蓋シ及射爐建築費ト同一般ノ帑銀ニシテ要スルニ征討費ヲ奇債トセシ嫌疑ハ免シ得サルヘシ(此事ノ慶陸軍卿最モ苦心セラル、所ニ然レモ既注ハ尤モ可ラス此ニノ欠當アリトモ既拵ノ金額ハ由テ征討費ヲ決算ニ編入スヘシト雖モ未拵ノ金員ハ之ヲ如何スヘキヤ條約濟ヲ以テ決算ニ立テ可ナルヤ將シテ巨分ヲ立テ征討費ノ結否ヲ定ムヘキヤ必ズ多少ノ評議ヲ尽スニ非サレハ決シ難キ者トス

一 小銃製造器械購入

此器械ヲ購入セントスルノ旨趣ハ亦前段小銃修理所ノ條下ニ陳述セルカ如シ然レトモ此器械ハ本ト製不用ニ係リ特ニ修理ニ用ユルハ過分

ナルカ故ニ到着ノ上ハ本廠ニ在ル分ノ器械ト交換スルノ言ナリ是レ  
本廠ハ本ナリ彼ニ根元ノ製造所ヲ設ケ此ニハ修理所ノ置ノ議ト  
云而シ現品ハ未ク到着セズ亦單ニ約條濟ニ係ルナリ  
此費額四萬五千圓ニシテ既ニ支拂濟ノ金七萬千貳百五拾圓計ニ  
原額ノ四分ナリ而シ殘金三萬三千七百五拾圓ハ條約濟ニシテ將  
来必ズ支拂濟ニ要スル者トス且其支拂ノ期限ハ本年五月中ナリ  
此事ノ起テハ概子前部大砲製造器械ト同一ナリ而シ現在金ノ  
處分モ亦シ大砲製造器械ニ比準スヘキ者トス  
一 スナイトル彈藥製造器械購入  
此購入ヲ要スル原日ハ前ノ小銃彈藥製造所ノ條下ニ陳述セシカ如シ  
而シ此器械振付處ハ現今ノ製造所近傍ニ建設スルノ目的ニシテ其土  
地買上ハ既ニ濟ミタリト云然レトモ該建築費等ハ一向ニ未ク着手セズ且  
器械モ未ク到着ノ期ニ至ラス

此費額ハ貳拾九萬七千貳拾圓ニシテ内七萬四千貳百五拾五圓ヲ支拂  
濟トス此原額ノ四分ナリ而シ將來仕拂ノヘキ高ハ貳拾貳萬貳千七百  
六拾五圓之ヲ條約濟トス且其悉皆支拂ノ要スル期限ハ明五年六月  
中ナリト云

此事ノ起テタル前部小銃製造器械ト異ナラズ故ニ今現存金ノ處  
分モ前部ニ比準シテ議スヘキ者トス

一 小銃材料購入

此購入ノ原旨ハ前部小銃修理所ノ條ニ於テ略述セシカ如シ現在ノ小銃  
精良ナラサルカ故ニ許多ノ被害ヲ来スナリ仍テ今我レノ工夫ヲ以テ  
一種ノ新銃ヲ製造セントスルノ目途ナリト云而シ現今購入シタル現品  
ヲ檢スルカ如シ

一 銃身鉄材ハ分通り到着シ現ニ支廠内格納所ニ一分ヲ納メ其七  
分ハ城内庫中ニ蔵在セルヲ見タリ

一 機関鉄材込矢用材大概到着シタリ而シテ込矢用材ハ格納所ニ在リ機関鉄ハ城内ニ蔵ム乃チ銃身ヲ併セ凡ソ注文総數ノ半額ハ既ニ輸入ニ届セリト云

一 銃釘用材ハ未タ来ラス

此費額ハ三拾七萬四百廿拾六圓六十六丈七厘ニシテ既ニ仕拂ヒタル者拾四萬九千八百七十七圓八拾五丈三厘而シテ條約濟ニシテ將來必ス支拂ノヘキ者トシ現在セル金五拾五萬五百三拾八圓八拾四丈四厘ナリ且其支拂ノ期限ハ本年九月中ニ在リト云然レトモ関稅理ノ説ニ買収方ノ都合ニ依リ今姑ク前額ヲ充ルト雖モ現品悉皆到着スルニ到シハ又壹式萬圓ヲ減致スヘキ見込アリト

此ノ起見ヨリシテ其原因ヲ論究スルハ必シモ征討費ニ属ス可ラサル者也然レトモ當時ノ勢ト已ムラ得サルハ然テ前節砲銃ノ器械類ニ準シテ之ヲ屬分ヲ為スヘキ者トス

一 以上七項ハ今其工事ヲ中止ス可ラストシテ現ニ其許可額内ノ金五員ノ仕用スル者ナリ然レトモ兵器庫建築ノ如キ現業ハ既ニ中止ニ属スト雖モ其費用中ノ殘金ヲ流用スルノ目途ナク改ニ之ヲ中止スヘカラサル部ハ二百五十員耳而シテ目今金ヲ中止ニ係ル者九ノ如シ

一 臨時兵器製造

此費額六萬貳千四百拾貳圓九十五丈ニシテ既ニ支払ヒタル金四萬千五百六拾七圓九拾五丈五厘且外事ニ流用支費セシ金三百拾五圓九拾六丈三厘ナリ而シテ現殘金貳萬五百貳拾九圓八丈五厘ハ無論完納スヘキ者トス

此費額タル素ヨリ此ニ止ラヌ初征討中支敵ニ於テ從事セル各種ノ製造品ハ然テ征討ノ用ニ供スル件ニアラサルナキヲ以テ其費用ハ悉皆臨時費中ヨリ支辨セリ即チ小銃修理彈藥製造其他各種ノ工事皆是ナリ然レニ九月ニ至リ征討事ノハ際シテハ之ヲ中止スヘキ者ニ付

九月迄ノ決算ハ已ニ了ラシタリ然レトモ其事未タ功ヲ竣メス工或ハ半  
途ニシテ未置セサルヲ得サル物アルカ故ニ状ヲ具シテ陸軍省ニ伺ヒタルニ  
依田其功ヲ竣ムヘキノ命アルニ依リ更ニ其費額ヲ要求セシテ前ノ如シ  
然ルニ頃日ニ至リ更ニ命令アリ故ニ又之ヲ中止セリ其事物ノ如キハ或ハ  
今ノ常費工業ニ係ルアリ敢テ無用ニ属セスト云

一 スナイトル彈藥材料購入

此費額五萬圓ニシテ既ニ支拂ヒタル金四萬三千九百九拾三圓八匁而シテ現  
残金六千六圓九拾貳匁ハ亦ウ完納スヘキ者トス

此購入セシ材料ハ梭子真鍮板ノ類ニシテ既ニ到來セル者多シ而シテ支  
廠内格納所ニ蔵置セルヲ見認メテ蓋シ中止スト雖モ實ハ既ニ其  
事ラソラシタルナリ

一 小銃製造所建築

目下之ヲ小銃管理所ト稱ス

此費額三萬圓ニシテ既ニ支拂ヒタル金貳萬五千百七拾三圓九拾三匁六厘

而シテ現残金四千八百貳拾六圓六匁四厘ハ目下完納スヘキ者トス

此工事ノ原旨ハ小銃製造器械購入ニ准ズル者ナリ而シテ其木材ハ  
悉皆具備シ唯之ヲ結構スルノ工ヲ欠クノミ地固ノ株モ亦シテ既ニ具  
備シ現ニ壕内ニ在リ然レトモ石材ハ未タ具セス且未タ其地ヲトセテ故ニ  
地形ハ未タ全ク着手セズ

或ハ云ク器械ハ亦購入スヘキ者ニ属シテ今此建築ヲ中止スルハ不審  
セト其意シ陸軍省ノ主意ニ在テハ此ノ事タル他ノ條約濟物品ノ如ク  
急テ要スルニ非サルカ故ニ此項請ホセル貳拾八萬圓ノ内カ又ハ空額ノ内  
ヲ以テ派用支辨シテ其功ヲ竣メシムルノ目途ナリト云

一 以上七項<sup>又</sup> 煙建築ヲ以テ小銃器械所ニ至ルマテ總テ十項其費用ノ  
費額總計百拾貳萬八千三百四拾九圓六拾壹匁七厘其内支拂  
濟四拾貳萬九千三百八圓五拾三匁壹厘而シテ條約濟ノ高五拾九萬  
貳千七百三拾五圓壹匁七厘并ニ派用セントスル金七萬四千九百四拾



四圓ナルヲ以テ現ニ殘金トスル者ハ僅ニ三萬千三百六拾貳圓六丈九厘  
ニ過キス然レトモ彼ノ流用スヘシトスル七萬金圓ハ今日ニ在テ其意ニ任ス  
ヘキ者ニ非サルハ前ニ論述シタル如シ乃チ之ヲ合計スルトキハ凡ソ拾萬六  
千三百六圓六丈九厘ヲ完納シ得ヘキツ若ナリ若シ又此他六月迄ニ押ヒ  
尽サル者即チ古及射燈費ノ内及ヒアルニテ改造費ノ内等ヲ完納  
セシムルニ至レハ高ト此他額ニ超過スルコトアラシ但議未ク決セザレバ則チ  
敢テ之レ雜キ者トス

一 右ノ説ニ據テ及射燈建築費ニ流用セントスル七萬金圓ヲ完納セシ  
ムル時ハ及射燈何ヲ以テ建築ラゾスヘキヤ蓋シ徑前ニ立戻リテ定  
額ヨリ支辨セシメントスルカ其苦情又百端ナルヘシ到底務弄上大ニ評  
議ヲ尽シ別途渡シノ金額ヲ定メ漸次竣功ノ事ニ着落セシムルノ  
外他策ナカルヘシ又アルニテ改造費モ亦之ニ準ス

一 右ノ外條約濟ニ係ル金員五拾九萬金圓モ素ヨリ六月迄ニ押ヒ得ヘ

キニアラサルノミナラス來年六月ヲ期スル如キ者アルヲ以テ其實ヲ論  
スレハ豈亦之ヲ征討費ノ巨域ヲ脱シ更ニ其費途ヲ議スヘキ者トス然トモ  
其事タル外國トノ條約ニ係リ之ヲ猶豫シ又ハ中止シヘキ者ニ非ス而ソ  
其額多ク甚ク巨多ニシテ通常費途ヨリ支弁スヘキニ非サレハ今之ヲ  
シテ征討費ノ巨域ヲ脱セシメントスルハ甚ク難事ナルヘシ仍テ已ムヲ得  
サレハ其餘約濟ノ證書ヲ出サレノ以テ直ニ決算ニ立テ以テ征討費ノ  
勘定ヲ了スルノ外他事ナカルヘシ而ソ其現金ハ之ヲ大段出納局ニ預リ  
所要アル毎ニ之ヲ支弁スルノ猶ホ納拂局ヲ取扱ノ如クセシムヘシ

一 抑モ征討費ノ巨域ヲ定ムルハ素ヨリ其期節アリテ短リニ伸縮スヘカラ  
スト雖モ今砲廠ノ如キハ葛藤蔓延容易ニ裁斷スヘカラサルニ依リ  
寧ロ本年六月ヲ以テ之カ界限ヲナスノ愈シルニ如カサルヘシト思考セリ

一 元來前ニ記述セル數項ノ諸建築及ヒ諸器械購入ノイタル征討費ヲ  
以テ起手シタルニ不<sup>付</sup>今更ニ之ヲ論議スルニ及ハスト雖モ建<sup>付</sup>築落成シ

器械具備シタルノ後之ヲ用ヒテ製造スル物件ノ多寡及ヒ其費用ノ一ヲ想察スルハ實ニ容易ノ件ニアラサルヘシ彼ノ小銃製造器械及ヒ其建築并ニ材料其他該彈藥ノ製造器械及ヒ材料代價ヲ併セテ既ニ七拾八萬貳千余圓ヲ費ヤセリ而シテ今後之ヲ用テ製造スル物件ニ付更ニ十ヶ年間年々貳拾八萬圓ヲ要スト云此蓋シ一ノ小銃ニ係ルノニ此外大炮ニ属スル及射壚ノ如キ亦シ豈ニ此ニ准セサルヲ得ニヤ陸軍卿ノ高論ヲ謹承スルニ今日ノ勢ト姑ク見兵四萬ノ置ヘント則チ之ニ要スル常備ノ兵器幾個ニ才豫備ノ者幾個ニテ可ナルヤ否ヲ確知スル能ハスト雖モ今此器械ヲ設置スルハ其兵器ヲ製造シ且之カ修理補欠スルニ於テ又ス緊要ニシテ且通常ナルヘキヲ信認セサルヲ得ス且此事タル皆新製創造ニ係ルカ故ニ鄙心ノ敢テ前ノ如ク處分アラシクテ祈望スル所以ナリ(此議頗ル高量アリ但常費豫算ノ方法ニ任ルルニ非サレハ尽ス能ハス且此ニ緊要ナラサルヲ以テ要ニ

贅言セズ)唯思ル所ハ將來定額經費上ニ於テ或ハ變動ヲ生スルマラシク切ニ謂フ砲廠工業費ノ事又ス改正スヘシト  
一 砲廠工業費ノ改正ヲ要スヘキ事理ハ一ニシテ是ラスト雖モ且其著明ナル者ヲ挙テ之ヲ言ハシニ在庫品ヲ使用スルノ件ナリ今征討費ニテ製造セル物品ノ明細表ヲ檢スルニ目論見價格幾個内何程在庫品ヲ使用スル故ニ差別何程ナリト云ヘル如キ此ニ皆是ナリ彼在庫品ナル者ハ何物ナルヤ畢竟嚮ニ別ニ製造セシ物アリテ其カ為メニ残剩セシ品類ナリ而シテ其品類ノ代價ハ前段材料格納所ノ條下ニ陳述セシカ如ク高ノ製造物ノ代價中ニ挿入シタルハ故ニ此ノ製造物ノ價ヲ彼ノ他物ニ負セタル道理ニシテ此物ニ在テハ大ニ幸ヲ得ルモ彼ノ物ハ甚タ不幸ナルノ理ナリ陸軍卿ノ語次ニ云曾テ馬鞍ノ製造砲廠ニ命シタルニ其價貳百七拾圓ニ近シ之ヲ市中ノ鞍工ニ命スルハ百五拾圓内外ニ其差甚シ遂ニ市工ニ課シクテ其砲廠ニ在テハ一鞍ニ

七  
歳  
自

要スル草類ヲ購入スルニ其代價ノ積リ方十分ニテ他ノ差引ナケレハ也  
故ニ鞆ノ價ト如ク高貴ナリト雖モ馬ノ知ラヤ一方ニ在テ之カ残判  
ノ草類ヲ使用シテ製造シタル鞆包金ノ如キハ全ク無代價同様ノ座  
ナルヲアルヲ因テ其帰スル所ハ到底一致ナリト雖モ年度ヲ跨ル等ノ一  
ニ至テハ或ハ不都合ナリト云ハサルヲ得ス故ニ若シ之ニ資本ヲ貸与シ其  
残判ノ材料ヲ備ヘ各工場ニ於テ所要アル毎ニ之ヲ賣与シ其残  
判ハ更ニ代價ヲ付シテ又之ヲ買収スルヲアルニ至レハ彼等ノ價格平  
均シ且廠内ニ隠然タル物件アルヲナク而シテ其計弄モ亦ク自ラ公明精  
到スルヲ得ヘシ此他一般ノ工業費ニ準スルノ説ハ砲廠ノ管理官ヲ  
始メ工業ニ従事スル者ハ頗ル心服スル所アリテ寧ニ之ヲ改正ヲ希望  
スルノ情マルニ似タリ

一 在庫品ニ二種アリ前節ニ説明セシ物類ナリハ曰諸藩ノ還納物ノ  
類ナリ此在庫品ハ實ニ砲廠ノ準備ニシテ又其私有物ニ近シ蓋シ

其代價ハ或ハ無ク或ハ既ニ他物ニ負擔セシメタルカ故ニ其計弄勘定  
外ノ物ニ属スレハ也此レ以テ改正スヘキノ一斑ヲ知ルニ足ラン

一 砲廠工業費ヲ改正セントスルニ當リテハ先ツ其在庫品ノ物類負數  
及ビ價額ヲ審ミスルヲ緊要ナリト思考シテ之ヲ陸軍卿ニ稟白シ陸  
軍卿ニ照會シテ其詳ナルヲ通知センコトヲ<sup>照會</sup>自セシカ未ク其<sup>詳</sup>ナリ  
得ルニ及ハスレテ帰ル且又砲廠ニテ要用ナル鉄材ハ往來皆ナシテ  
洋品ニ資シリ尤モ間ニハ我藝鉄ヲ使用スルヲアレバ僅ニソルナ  
敷ニシテ所要ノ百分一ニ至ラズ其<sup>藝</sup>鉄其價ハ最モ精純ニシテ  
遠ク英國品ノ上ニ出ルト雖モ奈何セシ其製材甚ク短小ニシテ我  
製造物ノ用ニ適スル能ハサレハ也故ニ若シ鑛所ニ於テ砲廠適用  
材ヲ副産シ以テ之ヲ致スニ至レハ爾後專ラ之ヲ用ヒテ自ラ洋外品ヲ  
仰リニ及ハサルヘシト云々<sup>廠</sup>ニ於テ意ヲ用ユル者概シ此類多シ因  
テ贅言ト雖モ併セ記シテ萬一<sup>考</sup>ニ供



|   |    |             |             |              |            |
|---|----|-------------|-------------|--------------|------------|
| 考備  | 計  | 拾四萬五千四百九拾五匁 | 拾壹萬五千五百八拾五匁 | 五拾九萬七千七百三拾壹匁 | 三萬三千六百六拾六匁 |
|   | 合計 | 百拾萬八千三百九拾九匁 | 四拾萬九千三百八拾五匁 | 五拾九萬七千七百三拾壹匁 | 拾萬六千三百六拾六匁 |
| 又差引殘金、内七万四千九百四拾四匁、及射埴建築費、流用スルノ議ナレトモ、今ハ之ヲ殘金ト見做シ、如是調査セリ |    |             |             |              | 三萬六千三百六拾六匁 |

五代氏製茶藍場景況

一 器械具備シ工場ノ整頓スルト其工業ノ進捗スルハ之ヲ昨年四月ノ觀察スル所ニ比スレハ實ニ倍ニ進セルヲ見認フタリ水揚ケ唧筒ノ如キ別ニ一箇ノ大器ヲ置キ昨年設置セシ分ハ二更ニ別處ニ移シ合セテニケ所ニ水揚場アルニ至ル亦以テ其盛大ニ就クヲ見ルニ足ラン其他各所位置ノ齊整物件ノ便良及ヒ職工ノ巧致ナルモ皆此ニ準ナス

一 撰藍所ノ女工現ニ百二十八人アリ精勵業ヲ執ル藍水槽ヲ設置スル長廠凡ソ教棟亦少昨年ニ比スレハ若干許ヲ増スニ似タリ而シテ各之廠ニ在ル槽數殆ント三十個以上ニシテ之ヲ官スル職工ハ二乃至三名ニ過キス亦少以テ職工ノ進歩ヲ知ルヘシ

一 工場ノ規則計算ノ方法モ亦少改良セリ就中計算ノ法ハ藍草ノ原質ヨリ以テ精製賣捌ニ至ルニテ各處ニ皆十景初仕入人代

價ノ基本ニシテ逐次之ヲ計算シ遂ニ其差引計算ヲ為スルトス  
故ニ擗リ損益比較ノ分明ナルミナラス借算混推ノ憂ナキニ  
庶幾シ

一 精藍日ノ出来高ニ上品百斤余下品五十斤余ニシテ總計百  
五十斤全ナリ(水分ヲ除去シタル精藍ノ斤數ヲ算出せん者ニ)而シテ賣價  
六圓ニシテ當時日ニ千圓ノ上リ高トス内五百余圓ヲ藍草ノ運費  
トシ職工詰料其他ノ諸費九拾圓及ニ諸費ノ滯留拾圓都テ日ニ  
百圓ヲ費スラ以テ差引凡ソ三百五拾圓余ノ利益トス

一 目今ニ藍ノ賣捌ケ方未ダ十分ナラサルカ故ニ恰モ捌ケ高ニ當ルノ  
工業ヲ為スノミ然レモ器械職工ハ之ニ三倍スルノ工業ヲ成シ得キ  
ノ餘カヲ有セリ故ニ爾後賣捌ケ盛ナルニ至レハ工業モ亦少シ隨テ  
之ヲ大ニスヘシ方ナシテ今ニ三倍スルヲ得ルト雖モ器械職工  
ハ敢テ増加ヲ要セス因テ其費用モ一倍毎ニ目下費額ノ一割ヲ増セ

ハ可ナリト然ルトモ其利益モ亦常ニ倍セザスヘキ言ニ付今ヨリ藍  
價ヲ低下スルトモ敢テ損失ナキノ見込ナリト云

一 賣捌方ヲ盛ニスルノ方略ハ五代氏自ラ目的アリト云而シテ同氏ノ目今  
該工業ニ勉勵スルハ實ニ驚服スヘキノ状アリ

一 以上僅ニ目撃スル所ヲ述フ觀視一日ニ過キサルカ故ニ其詳細ヲ  
記スル能ハス幸ニ註察

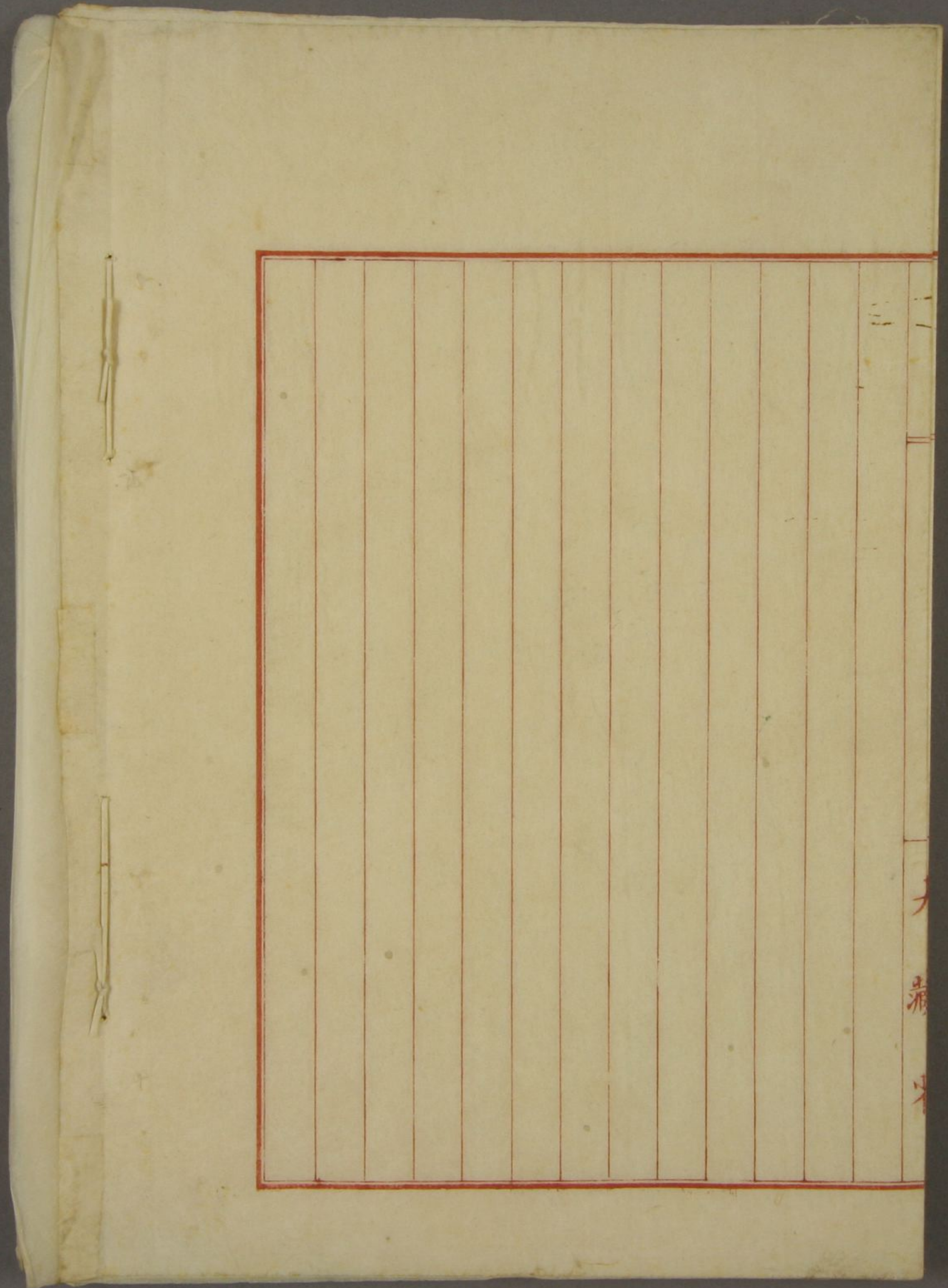
明治十一年七月

權少書記官大谷靖



Blank manuscript page with vertical red lines.

Blank manuscript page with vertical red lines.



方  
鼎  
水